

教材・支援機器活用実践事例【ICT】

苦手な書字を補助するための ICT 活用

「数と計算」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・高等部 1 年
	障がい名等	知的障がい、A S D
	子どもの実態 (学習上又は生活上の困難さ等)	・発語は少なく、ジェスチャーで意思表示する場面が多い。 ・好き嫌いがはっきりしており、やりたくないと思った活動には断固として参加しないことがしばしばある。 ・動作が非常にゆっくりで、一つの活動を完結させるまでに時間がかかる。
授業について (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	数学
	単元(題材)名	単元名「数と計算」
	単元(題材)の概要	・ 1 ～ 1 0 までの具体物を数え、数字が書かれたカードを選択する。 ・ イラストをもとに、答えが 1 0 までの足し算の式と答えを書く。
教材・教具 支援機器について	教材・教具 支援機器	タブレット端末 (使用アプリ : finger board) パソコン (使用アプリ : PowerPoint) 5 5 型テレビモニター 
	ねらい・工夫点	〈ねらい〉 ○学習への意欲や関心を高め、自ら ICT 機器を操作し課題に取り組むことで、学習内容の理解を深めたり達成感を得たりする。 〈工夫点〉 ・ 生徒の興味や関心に合わせて、写真やイラストを用いた。 ・ アニメーション表現ができる 3D オブジェクトを使用し、生徒が画面に注目できるようにした。 ・ 生徒の学習習熟度に合わせて教材を作成した。 ・ 解答の正否を即時に表示することで、次の問題へ進む意欲を高めた。
	材料・作成方法等	アプリ (finger board)
子どもの変容や評価		・ 学習内容に興味を示し、自分から課題に取り組む姿が見られた。 ・ 鉛筆などで紙に文字や数字を書くことが苦手だが、オブジェクトを指で移動させることで、自分の考え (答え) をスムーズに表現することができ、たくさんの問題に取り組むことができた。

(令和 6 年度)